

第1回こらぶれーしょんセミナー報告

— 子どもたちを豊かに育むまちの資源を集める —

柴田 長生



平成26年1月11日
(土) 13時30分～16時、本学普照館において、人間学研究所と宇治福祉園との共同企画

による「第1回 こらぶれーしょんセミナー『子どもたちを豊かに育むまちの資源を集める』」が開催された。このセミナーは、「教育福祉心理学科連続講座」としての開催でもあった。教育福祉心理学科の新設に伴い、地域の保育現場との提携を模索し、宇治福祉園との出会いの中で本セミナーが企画された(こらぶれーしょんプロジェクト)。プロジェクトでは「子どもたちが豊かな未来像を描くことができる社会の実現」に向けて、保育にかかわるプロ・アマと大学との継続的な連携を今後も模索する。

地元の保育士や子育て中の母親ら約80名が参集した。柴田がコーディネータとなり、パネリストには、「宇治に冒険遊び場つくろう会」の島田礼子・「NPO法人・子育てを楽しむ会」の迫きよみ・「親と子のこころのエンパワメント研究所」の馬見塚珠生の3氏をお迎えした。

島田氏は、宇治市菟道公園で月2回開いている遊び場「うさぎはらっぱであそぼうよ!」の活動を紹介。「大人が口を出さずに子どもが自由に遊べる場づくりが大切。そんな遊びの体験が子どもの成長を支える。大人がそういうことを守れていないのでは…」と訴えた。

迫氏は、自身の子育て経験もふまえながら支援の充実化を推進してきた経過を話された。「2、3年前ぐらいから赤ちゃんの抱き方がわからない人が増えてきた。教えてもらう機会がないのが現状。身近な人が教えることができる場をつくっていきたい」と語った。

馬見塚氏は、迫氏の話を受けて「親子の関係も、見よう見まねで伝わる環境がなくなってきており、プログラムで学んで習得してもらうようにしている。(学んだ関係は)子どもが一生生きていく土台になる」と示した。

後半は会場からの質疑に、パネリストが答える形で自由なやりとりが盛り上がり、男性の子育てのあり方や、遊び場におけるリスクのとらえ方などについて話し合った。最後に、企画者の一人である杉本一久三室戸保育園園長から、こらぶれーしょんプロジェクトの趣旨説明を含むまとめの発言をいただいた。

学内にこにこルームでは、宇治福祉園保育士による一時保育ルームが同時開設され、15名程度の子どもが参加した。休憩時には、京都文教大生による「宇治茶の接待」があった。第2回目のセミナーは3月1日開催予定。

